第２５回　都市景観フォーラム

令和２年２月９日（日）

平成から令和へ
　横須賀の魅力をつなぐまちづくり

横須賀市　都市部　まちなみ景観課

都市景観フォーラム プログラム

日時：令和2年2月9日（日）
場所：横須賀芸術劇場（ベイサイド・ポケット）

CPD登録

13:30 ●開会

主催者挨拶：小泉　厚　/ よこすか都市景観協議会会長
来賓挨拶　：田中　茂/ 横須賀市副市長

13:40 ●講演１　歴史にみる横須賀の魅力

山本 詔一 氏/ 横須賀市近代歴史遺産活用事業推進協議会会長

郷土史家、横須賀開国史研究会会長、横須賀に軍港資料館を作る市民の会会長、浦賀奉行所復元協議会会長、レンガドック活用イベント実行委員会委員。江戸時代から続く浦賀の書店の7代目店主。

令和2年度にオープンするティボディエ邸を活用した（仮称）横須賀市近代遺産ガイダンスセンターと、市内に点在する多くの近代の歴史遺産を周遊する仕組み「ルートミュージアム構想」のお話を交え、歴史的な観点から見た横須賀の魅力とはどのようなものなのかをご講演いただきます。

14:40 ●休憩

14:55 ●講演２　斜面都市の魅力と課題

矢部 俊男 氏/ 森ビル㈱都市開発本部計画企画部メディア企画部長

1998年森ビル株式会社入社。六本木ヒルズ開発における都市開発プレゼンツールの開発・企画担当。都市の未来の視覚化・東京ジオラマ等の作成、都市開発・シティ―セールスにおけるコミュニケーションツールのソフト開発業務などに従事。

横須賀市は、まちづくりにおいて数多くの先進的な事業を手掛けてきた森ビル㈱と「まちづくり基本協定」を締結しました。森ビル㈱の目で見た「これからアピールすべき横須賀の魅力」とは何なのか。また、その魅力を活かした景観づくりやまちづくりにつなげるために、地元住民・事業者・行政が取り組むべきことのご提案をお話しいただきます。

15:55 ●質疑応答

16:20 ●終了

令和元年度　よこすか都市景観協議会会員

【正会員】（９団体）

（一社)神奈川県建築士会横須賀支部・(一社)神奈川県建築士事務所協会横須賀支部・ミーズ設計連合協同組合・
(公社)神奈川県宅地建物取引業協会横須賀三浦支部・(公社)全日本不動産協会神奈川県本部横須賀支部・
横須賀建設業関連団体協議会《(一社)横須賀建設業協会/横須賀建工同志会協同組合/(一社)横須賀三浦建設協会/横須賀電気工事協同組合/横須賀管工事協同組合/横須賀緑化造園協同組合/横須賀三浦塗装工業協同組合/横須賀内装事業協同組合/測新会》・
(公社)横須賀青年会議所・横須賀商工会議所・横須賀市

【オブザーバー会員】（３団体）

神奈川県横須賀土木事務所・東京ガス㈱横浜支社・東京電力パワーグリッド㈱藤沢支社

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会横須賀支部 Kanagawa Architect Office Association Yokosuka Branch

一級建築士事務所・官公需適格組合 ミーズ設計連合協同組合

公益社団法人 神奈川県宅地建物取引業協会 横須賀三浦支部

一般社団法人 神奈川県建築士会 横須賀支部

公益社団法人 全日本不動産協会 横須賀支部 ZENNICHI KANAGAWA NET

横須賀建設業 関連団体協議会

公益社団法人 JCI 横須賀青年会議所 Junior Chamber International Yokosuka

よこすか都市景観協議会

よこすか都市景観協議会は、横須賀にふさわしく魅力ある都市景観の実現に寄与することを目的に平成9年に設立されました。景観形成に関わりのある諸団体が会員となり、都市景観フォーラムをはじめとする各種事業に取組んでいます。

◆会長挨拶（よこすか都市景観協議会会長　小泉厚）

◆来賓挨拶（横須賀市副市長　田中茂氏）

◆講演１　歴史にみる横須賀の魅力
（山本詔一（やまもと　しょういち）氏 / 横須賀市近代歴史遺産活用事業推進協議会会長）

司会／山本様は、横須賀の郷土史家として活動されており、横須賀市近代歴史遺産活用事業推進協議会会長ほか数多くの役職を歴任され、地域の歴史を次世代に伝えるために活躍していらっしゃいます。
本日は、明治初期に建築され日本最古級の洋館と言われるティボディエ邸を活用した近代遺産ガイダンスセンターと、横須賀の景観資源である近代歴史遺産を周遊するルートミュージアム構想のお話を交えながら、これまでの歴史の中で作られてきた横須賀の魅力とは、どのようなものなのかご講演いただきます。
それでは、山本様よろしくお願いいたします。

山本氏／紹介をいただきました山本です。
横須賀は日本遺産に指定されているものが多くあります。
呉、佐世保、舞鶴、横須賀の軍港４都市でまとめたものです。
単体でこれが重要というものではなく、日本遺産はストーリーができるものです。
４つの都市が選ばれたのは、軍港としてのいろいろなものが色濃く残っている。
そこにはストーリーがあるということです。
残念ながら、横須賀ではうまく活用されていません。
これをうまく活用するにはどうすればいいか、ということで進めてきました。
「横須賀に軍港資料館を作る市民の会」を作りました。
この中でティボディエ邸（ヴェルニーの次のナンバー２の家）が残っており、それが解体されるということで調査に入りました。
これは大変な重要文化財という事を米海軍に言ったところ、米海軍はティボディエ邸をつぶすのではなく、解体して保存してくれました。
解体した部材をもらって 10 年、保存してきましたが、「市民の会」で頑張って復元しようと活動したら、市がその計画をとおしてくれました。
ところが、お金の問題、建物の大きさの問題等で少し行き違いがあり、前へ進まなくなってしまいました。
どんな考え方をすれば前へ進むのか、という中で、「ルートミユージアム」という考えが出てきました。
横須賀市内に残っている様々な文化財、記念物、それら全てを１つの博物館に入れるのでは

なく、横須賀全体に屋根をかけた博物館ということがルートミュージアムです。
あちらこちらに残っている外にむき出しになっているものや、中に入れられないものなどありますが、外から見られるものをルートミュージアムとしようという構想を立てました。
では、そのセンターとなる施設はどうするか。
市の中に協議会を作りまして、ティボディエ邸を復元するということで横須賀市が同意してくれました。
残っている部材は古くなっています。
これだけでは復元したくても建てられないことがわかりました。
外観は、スライドのような形です。
この中に、展示物として、トラス構造があります。
これは富岡製糸場に行きますと、見ることができますが、木の組み方などは、横須賀市が始まりとなっています。
昔の部材である木のトラスを使おう。
レンガもたくさん使われています。
ヴェルニーが最初に横須賀にきて造船所を作る時に、フランスから技師を連れてくる１年３か月の間に、帰ってきたら横浜の町が焼けてしまっていました。
それで、木造の建物は怖いということで、もっと耐火性の強いもの、レンガ造りのものにしようということになりました。
木の柱の間にレンガを積んで壁にします。
木骨レンガと言います。
富岡製糸場でも木骨レンガが使われており、富岡では完全な形で残っています。
富岡製糸場にもたくさん出てきますが、横須賀の造船所である横須賀製鉄所にいた人が設計したものです。
それで、あっという間に設計図ができあがりました。
より良いものを作るために、本来は今年の 11 月にこの建物ができ、オープンする予定でしたが、少し伸びてしまいました。
より良いものを作るということで協議会の会長である私も納得しました。
ちょうど今、議会でこの問題が取り上げられておりますが、来年の２月にはガイダンスセンターがオープンする予定です。
ここがルートミュージアムのセンターになり、横須賀の魅力を醸し出そうと計画し、ここで情報発信して皆さんに見ていただこうと思います。
ガイダンスセンターの役割ですが、今までの博物館のようには、多くは飾ってはありませんが、横須賀全体をこのような形で見ていただこうと思います。
現在、試みにいくつかのコースが出来ています。
画面には「三笠」が写りました。
横須賀には記念館三笠があるから、これは本物なんだから建物が無くても十分と言われま

す。記念館が重要なのはもちろんですが、実はこの中に 36（さんろく）式の無線機が飾ってあります。
これは咸臨丸、勝海舟さんを思い出すかもしれませんが、その上にいた、艦隊でいうと司令官にあたる人であった木村摂津守喜毅（きむら　せっつのかみ　よしたけ）さんの息子である木村駿吉（きむら しゅんきち）さんが 36 式無線機を開発しました。
日本の通信の歴史はペリーの来航時に線を引いてモールス信号を打って始まります。
薩摩藩の斉彬（なり　あきら）さんは、すぐに薩摩藩に取り入れようとしました。
神奈川県の初代の知事になる、寺島宗則（てらしま　むねのり）さんに命じて通信技術を取り入れました。
その後、線を引くだけでなく、大津から千葉県の松戸に無線で飛ばしました。
というように、通信の歴史の中で横須賀の占める役割は重要ですが、より遠くへ無線を飛ばすように改良したのが、この 36 式無線機です。
小さな箱ですが、かなり精巧に復元しています。
これを見ていただくこと。
また、学校として通信使を養成しなければならないということで、画面は、第２術科学校です。
JR 田浦駅近くにあります。
事前に申し込むと、きちんとした説明付きで中が見られます。
また、水雷学校という施設の跡地です。
日本の海軍の中の先端技術、それまでは海の中に爆薬をしかけてそれに触れると爆発するなどなかった時代に考えられ、通信が同じように開発されました。
そのようなものが第２術科学校の展示室で、海上自衛隊の協力のもと見ることができます。
昭和になると、通信施設の重要性を海軍はわかってきました。
それが陸上自衛隊の久里浜駐屯地に通信学校という形で残っています。
通信は、デジタルになっていましたが、デジタルから、システムにしなければならない時代となり、今は先端技術を取り入れた学校になっています。
通信学校の中は学校の様子は見ることはできませんが、古いものがたくさん並べられ、ここも予約をすると中を見ることができます。
せっかくこれだけの歴史があるので整備をして欲しいので、通信学校に申し入れ、もう少し勉強してもらいたいと言っています。
そういう歴史をまとめてあるのが、無線歴史展示室（YRP センター１階）です。
用事がないから行かない人が多いかもしれませんが、ここも電話一本で見せてもらえます。
実はここは携帯電話の発祥の場所です。
今はスマートフォンになっていますが、携帯電話の発祥の場所が YRP の NTT の研究室でした。
初めてここに行った時には、電話で戸締りができるなど、びっくりしていましたが、今はも

う、私がしゃべると、みなさんすぐにスマートフォンで調べて「本当だあっている、いや違っている」とすぐ言われ、やりにくくなってます。
これらの場所は点ですが、これらの点を巡ってみると日本の通信の歴史がこんなふうにわかるというのが、ルートミュージアムです。

次は近代造船です。
画面はヴェルニー公園です。
ヴェルニーが作った造船所には、日本で１番、２番、３番目に古いドライドックがあります。
しかも３つとも現役です。
一番古いのは、1871 年にできました。
石づくりですが、現役で活躍しています。
１号、２号、３号が現役なら、日本政府のものでしたら、間違いなくものすごい世界遺産です。
この後、４号、５号のドッグができ、100 年超えのドックが５つも並んでいるのは世界中を見てもここにしかありません。
残念ながらここは米海軍基地の中なので、簡単に入ることはできません。
これは１号ドックです。
ドライの状態になっています。ここで船の船底の修理をします。
航海していると海藻や岩がつくので、スピードが落ちるため、検査をします。
普段見ることができない場所、海の中の部分を検査します。
人間ドックのドックはこの言葉からきています。
今はウィンチで上げますが、ここに船を引き入れますが、当時は両側に人がいて、引き入れました。
この時にフランス語で「オーエス」とかけ声をかけました。
運動会で綱引きの時に言っている「オーエス・オーエス」というのは、この時に使われました。
船は浮いていると簡単に人力で動きます。
左右の引手がお互いに力を合わせ、均等に力を入れるためのかけ声です。
このようなドッグが１、２、３と残っています。
もう少し身近に見られるのが、浦賀のドッグです。
ドックは、レンガか石で作られるか、またはコンクリートで造られます。
浦賀のこれはレンガ造りです。日本ではここにしかありません。
このドッグもできて 120 年経ちました。
画面の写真では建屋が並んでいますが、もうこの建屋はなくなってしまいました。
景観フォーラムで、この話をするように言われたので、住友さんにも話をしました。
だいぶ遅れているのでは、この風景を大事にすることが文化財を保護することだと。

ドックを残すだけでなく、この風景があってこのドックが生きるのだと。
残念ながら、危険だと言う。
危険という言葉にかなうものはない。
危険じゃないようにするためには、何も使われない建屋に何億円と使わなくてはならない。
横須賀市でも出せない。
民間企業のものなので、泣く泣く、壊すことを了承しました。
しかしこういう景観があった等写真、記録をとってあるので、いずれ、何かの形で疑似体験ができるようにはしたいと思っています。
このようなドックがあり、これは日本の近代造船を見ることになります。
もう１つ、浦賀ドックの特色は、建屋の後にあるスロープになっている船台（船を造るところ）が残っています。
ここで世界でも名だたる帆船に挙げられる海王丸と日本丸が造られました。
つい最近、中東へ派遣された自衛艦「たかなみ」もこの船台で造られた最後の船です。
たかなみは、造られて 17 年経ち引退間近ですが、中東へ派遣されました。
今年は浦賀奉行所ができて 300 周年で、防衛省もそれを知っていてやったのかなと。
小泉さんが考えてくれたのか、いや河野さんも考えてやってくれたのかなと思い、ニュースを見ていました。
画面の下に、扉があります。
電気さえくれば、このドックは使えます。
見学用に作った階段がありますが、これは取り外せます。
このドックは使い道がたくさんあります。
横須賀市の都市部とも一緒になり、下におりるツアーを年に何回か開催しています。
ドックを体感するのも、横須賀ならではのものです。
もう一つ、横須賀はトンネルのまちです。
横須賀で自慢する日本一のものは、トンネルの数です。
トンネルを掘った中に、水道を引くために掘ったトンネルがあります。
造船所が活発になればなるほど、エネルギッシュになればなるほど、蒸気機関を動かすために石炭と水が必要でした。
最初はこの汐入エリアにあった水だけで間に合いました。
それでは間に合わなくなったので、走水から水を引きました。
７キロの道のりを落差 10 メートルで、自然落下式で走水水道はうまく作りました。
ただ、お金がなく、鉄管ではなくて土管で、ポンプではなく自然落下式です。
横須賀の水道局は大人しくて「これが日本で初めてのこれが近代水道です」とは言わないんです。
横浜に譲ってしまいました。
これが木管であるとたくさんありますが、近代水道としての役割をしてきました。

走水から馬堀へ抜ける、今は一方通行のあのトンネルは実は水道トンネルとしてできたものです。
一番初めにできた水道トンネルは、ベースの中に残っています。
はじめは相模原の半原から水道を引きました。
海軍は、地図に定規をあてて、半原から横須賀の逸見に真っ直ぐ線を引きました。
北鎌倉は円覚寺の目の前を突っ切っています。
横須賀線も無理に作ったので円覚寺の境内を走っています。
水道みちも円覚寺、建長寺を過ぎまして、八幡さまの脇に出ます。
そのまま逗子を真っ直ぐに突っ切って最終的に逸見に来ます。
画面はヴェンチュリーメーターです。大正期のもので、これだけでも文化財の価値があるものです。
これが水道トンネル。田浦の盛福寺。横須賀線と京急のクロスするところにあります。
何度か、水道局に通してくれるとすぐに逗子に出ることができるのでお願いしましたが、危険だから駄目ですと言われてきました。
水道トンネルとしては非常に立派なものとして残っています。
更に、その水道みちのところに、海軍と水道みちの境に石の杭が沢山、田浦にはあります。
海軍の水道みちとあります。
今まで邪魔だなと思っていた石が、視点を変えると史跡だとわかると、面白く歩けるようになる。
そういうインフォメーションをティボディエ邸の中でやっていこうとなっています。
画面は走水の水道トンネルです。
写真はありませんが、猿島に行くと、全部レンガで作られたトンネルが残っています。
追浜、田浦エリアにおもしろいトンネルが沢山あり、手掘りのものや名前の付いたものがあります。
トンネルができることによって生活の仕方が変わりました。
最近では人道トンネル、防災トンネルなどができ、トンネルを考えていきますと面白いです。
生活レベルでつくられたものが多く、横須賀の人や、水道は軍の力で掘られたものが多かったため、あまりいいプレートがないのが少し残念です。
ほかのところに行くと、トンネルがいかに重要だったか意味が書いてあるものが多いが、横須賀のトンネルには残念ながらそれがありません。
16 号線は上り下りが別の車線になっています。
最初はこんなに車が走ると思ってなかったので、上りだけでしたが、下りも掘りました。
JR 田浦駅の七釜（しっかま）トンネルは、明治、大正、昭和とトンネルが大きくなっていくのが目に見えます。
JR 田浦駅では、一番前の車両は、トンネルの中でドアが開きません。一番後の車両もドアが開きません。トンネルの中だからです。

駅についてもドアが開かないなんて、これは世界で見てもほとんどないものだと思います。
そういうものをちょっと意識するだけで、おもしろい景観が横須賀から発信できます。
それを織りなしていくものをこれから発信していくことが必要だと思います。

今日は一つ新しい提案をさせてもらいます。
「音楽のある風景」です。
音楽は見えなくて景観にならないと思いますが、今や景観は体全体で感じるものです。
景観は、五感を研ぎ澄ませて感じるものであると考えています。
横須賀は近代音楽発祥の地です。
ペリーが来航した時、久里浜に上陸しましたが、久里浜で初めてマーチングバンドでの行進を見てみんな驚きました。
行進という彼ら（アメリカ人）の独特の歩き方にびっくりしました。
300 人もの人が先頭の隊長の指示で右向いたり左向いたり止まったりできることにも驚きました。
その時に演奏されたのが「ヘイルコロンビア」、「ヤンキードゥードゥル」、「アメリカ」といった曲です。
「ヤンキードゥードゥル」は今も「アルプス一万尺」として残っている曲のことです。
もう一曲「アメリカ」という曲は、アメリカの国歌になった曲です。
当時のアメリカの事情は、南北戦争前夜であったため、南と北の両方の曲を流すことになりました。
このマーチングバンドを見て驚き、浦賀奉行所の役人の中に、それまでは太鼓の叩き方をどんどんとたたくだけだと思っていましたが、ダカダカダンダンと軽快で歩きやすいたたき方がある、これは勉強しなくてはと思って、長崎にできた海軍伝習所へ、金沢種米之助（かなざわ　しゅめのすけ）という人が音楽の勉強に行きました。鉄砲の勉強でもなく、造船の勉強でもなく、音楽の勉強に行きました。
2003 年に、横須賀でペリー来航 150 年の催しがありました。
その時にマーチングバンドの話をしましたら喜んでくれ、横須賀でマーチングバンドのコンクールを何年間か続けてしたことがあります。
その一番トップが、金沢種米之助ショーとしてやっていましたが、いつの間にか消えてしまいました。
私が目を光らせていれば違ったのかな。いや、私の力ではどうにもならなかったと思いますが、今度の市長は、音楽が大好きな市長だと聞いています。
あまり仲良くないので良く知りませんが、このようなコンクールが復活したら面白いと思います。
もう一つ、黒船に行って中に入った人が驚いたことがあります。
「ラッツアンドスター」、というバンドを覚えていますか？みんな肌を黒く塗って歌い踊り

ました。
あれと同じことを黒船の中でやっていましたが、それを「ミンストレルショー」といいます。
軽ミュージカル、ショーミュージカルをミンストレルショーでやっていました。
この年にアメリカでは、フォスターという作曲家がすごく流行っていました。
「峠の我が家」「草競馬」がありますが、この曲を弾きながら、白人が顔を黒く塗って出る。
これは、南北戦争の融合を求めてやっていたものですが、日本人はこれを初めてみて驚いています。
ペリーが来たのは、1853 年７月８日の金曜日の夕方でした。
その来航３日目です。７月 10 日は日曜日で、「この日は船に来ないで」と日本は言われました。なぜかというと、朝、ミサが開かれるからです。
そのミサが行われている時間に、浦賀の山の上から、船を覗こうとした人がいました。
それが、佐久間象山（さくま　しょうざん）という人で、浦賀日記にその様子を描いています。
象山が目にしたのは黒船の姿ですが、耳にしたのは讃美歌でした。
その時に歌われた讃美歌が、船に記録が残っています。讃美歌の番号もわかります。
「ああ素晴らしい、こういう状況の中でもこういう儀式をするのか、すごいな」と、象山は思ったことが浦賀日記に書かれています。
浦賀日記は、司馬遼太郎さんが「竜馬がゆく」の中で、その足跡をそっくり竜馬に当てはめて使っています。
「竜馬がゆく」では、竜馬が黒船を見に行ったことになっていますが、実際は竜馬ではなく、佐久間象山でした。
そのあたりは、司馬先生は非常にうまく書くので、いまだに竜馬はどこで黒船を見たのかと、私のところに聞きに来る人がいます。
竜馬は来ていない、と答えると、勉強不足だと叱られます。
こんな形で、近代音楽は横須賀を媒介にして広まっていきます。
薩摩には最初に軍楽隊ができ、その軍楽隊の中で一番活躍したのは、中村佑庸（なかむらすけつね）さんです。
中村佑庸さんは、ペリーが来る前の年に生まれました。
薩摩の軍楽隊で活躍し、フェイトンさんというイギリス人に西洋音楽を教わりながら軍楽隊を成長させました。
フェイトンさんが作った曲に「君が代」があります。今の「君が代」のもとになる曲です。
しかし、この曲は、中村佑庸さんには馴染めませんでした。
日本の象徴である陛下、当時の国家元首を招き入れる音楽としては「ふさわしくない」と中村さんは思っていました。
中村さんは音楽センスが良い人でした。
明治８年に、横須賀の造船所で、日本の国産軍艦第一号である清輝（せいき）という船が作

られました。
清輝は完成すると、明治 11 年に１艘でヨーロッパに行きました。
軍艦には軍楽隊が必要であると中村さんは承知していたので、軍楽隊を連れてヨーロッパへ行って演奏会を開きました。
するとこれが素晴らしいとヨーロッパの人に大拍手をもらいました。
明治維新から 10 年しかたっていないのに、日本人は西洋の楽器を使いこなすとヨーロッパ人に驚かれました。
気をよくした中村さんは、もっと日本人に合う「君が代」をやりましょうと言い出しました。
皇室としても、洋装になった陛下は動きにくそうだから、変更してもよいということになり、君が代制定委員会ができました。
中村さんの力によって君が代の制定委員会ができ、そしてできたのが現在の「君が代」です。
中村さんは、「君が代」の制定者であり、横須賀の海軍軍楽隊の初代隊長になりました。
海軍軍楽隊が最初にできたのは東京でしたが、後に横須賀に移り、今でも中村さんの子孫が逸見に住んでいます。
そして中村さんが軍楽隊をしていることを、遠く鹿児島で生まれ、憧れて飛んできたのが瀬戸口藤吉（せとぐち　とうきち）という人です。
瀬戸口さんは、「軍艦マーチ」の作曲者で、２代目の軍楽隊長です。
「軍艦マーチ」は現在、世界の三大マーチと言われています。
戦前は、日本海軍の中では超有名でしたが、世界的にはそれほどでもなかった。
日本海軍が行くとこの曲が演奏されるので、いい曲だと思われていたが、アメリカやヨーロッパの曲ほど良いとは思われていませんでした。
三大マーチと言われるようになるのには、戦後のパチンコ屋さんが頑張りました。
当時は、ピース（平和）という曲名で流したそうです。
すると勇ましくていい、わくわくする曲だと、進駐してきたアメリカの人たちも言い、有名になりました。
瀬戸口藤吉が生まれたのは、鹿児島県出水市です。
出水市では吹奏楽コンクールが行われていて、瀬戸口藤吉記念館があるそうです。
でも瀬戸口さんは 15 歳で横須賀市に来て、亡くなるまで横須賀に住んでいました。
でも、横須賀では何にもしてない。
軍艦マーチは、三笠記念館のところに碑を建て「守も攻めるも」と記しましたが、軍国主義はダメだとコンクリートで文字を埋められてしまいました。
今はコンクリートをはがして、また復元しましたが、軍艦マーチにはこんな意味合いがありました。
初代中村さんから２代目瀬戸口さんの橋渡しの頃に、小さな男の子が一人、東京から横須賀に引っ越してきました。
この人が、山田耕筰（やまだ　こうさく）さんです。

この建物の裏に汐入小学校がありますが、山田耕筰さんは汐入小学校に入学しました。
汐入小学校では山田耕筰さんが作った校歌が唄われています。
山田耕筰さんのお父さんは早くに亡くなり、横須賀の叔父さんのところに来たのです。
山田さんは内弁慶で外ではうまくいかなかった。
彼は家を出ると、必ず迷子になってしまう。それは、海軍軍楽隊が原因でした。
今でも海上自衛隊の横須賀音楽隊に演奏会を開いてもらうと、ものすごい人気で、大劇場でもいっぱいになるような人気です。
それと同じくらい、海軍軍楽隊は西洋の音楽を伝える使命を持っていました。
中村さんや瀬戸口さんが、率先して出て行き演奏し、街の中の行進も、先頭を切ってやっていました。
その音楽が聞こえてくると、４～５歳の坊やが家を飛び出していき、軍楽隊に付いて行ってしまう。
そして自分の家がどこか分からなく、泣きべそをかいてしまう。
すると「また軍楽隊坊主が来ているぞ」となり、汐入の子だとなり、連れて帰る。
近代音楽の父と言われる山田耕筰さんが、これまで大きくなるには、海軍軍楽隊、横須賀での音楽とのふれあいがあったということです。
山田耕筰の自伝のなかにも、「軍楽隊が何よりも好きであった」と書いています。
横須賀ができたのは 1907 年（明治 40 年）ですが、それから 30 年目、昭和 12 年に、市制 30 周年記念式典が行われています。
その記念式典の時に山田さんに作曲をお願いし、作詞は北原白秋（きたはら　はくしゅう）で横須賀市歌を作ってもらいました。
北原白秋は「城ヶ島の雨」という詩を作った人です。
この２人の三浦半島コンビにお願いして、30 周年に市歌を作ってもらいました。
今の市歌は團伊玖磨（だん　いくま）さんの作曲です。
30 周年の市歌は軍国調が強いものでした。
歌詞は「旭日の輝くところ儼たり　深き潮　艨艟（もうどう）城とうかび」
「もうどう」とは軍艦のことです。軍艦が城のように浮かんでいるというような曲でした。
これが横須賀の最初の市歌です。
山田耕筰さんと横須賀のつながりはこのように深く、瀬戸口藤吉さんとの交流も深かった。
山田耕筰が有名になってもお付き合いがありました。
瀬戸口藤吉さんが定年退職を迎えた時、「瀬戸口藤吉楽長に贈る」という曲を作り、山田耕作が退官記念に演奏しました。
更には、1841 年、瀬戸口藤吉さんが亡くなると「告別」という曲を作って、瀬戸口さんを送っています。
瀬戸口さんに２度曲を作っているということは、よほど、瀬戸口さんに憧れを持っていたのでは、と思います。

瀬戸口藤吉さんというと軍艦マーチが有名ですが、歌詞を日本国中から応募してもらって、「愛国行進曲」という曲も作っています。
ちょっとだけ歌えます。
♪～見よ東海に空明けて
これが瀬戸口藤吉さんの曲です。
テンポがいい曲で、「見よ父ちゃんの禿頭」というように替え歌になり広まっていきました。
軍国主義というだけでなく、日本の国に西洋音楽を広める意味で、中村佑庸、瀬戸口藤吉、山田耕筰という人達が非常に重要な位置にいたということがわかると思います。
そして山田耕筰に弟子入りしたのが團伊玖磨さんです。
おじいさんは團琢磨（だん　たくま）というすごい人です。
お父さんは團伊能（だん　いのう）さんという人で美術史家でした。
そのように芸術方面には才能があったのですが、伊伊玖磨が書いた曲を見て、お父さんは「作曲は、ベートーベンやショパンがやるもので、小僧がやるものではない。」と言い、山田耕筰さんに電話をかけて、「うちの息子を強く叱ってやってください」と言ったところ、山田耕筰さんが受けてくれました。
團伊玖磨は、明日山田耕筰先生に会えると思うと寝られなくなり、新しい曲をいくつか作って持って行きました。
彼が持って来たものを見ると、山田耕筰は、「お父さん、ちょっと席を外してください」と。
「本当にやりたいならば、東京音楽学校（今の東京藝大）を目指すくらいの勉強をしなければ。中々面白い曲をかいているね、これはいいぞ。」と。
そしてお父さんを呼び、「この人は音楽家にします」と宣言し、團伊玖磨は 13 歳の時に山田耕筰に弟子入りしました。
團伊玖磨が東京芸大を出るころには戦争が激しくなり、新宿の戸山にあった陸軍の軍楽隊にお世話になったりしていましたが、戦後になってすぐに音楽活動を再開しました。
ちょうどそのころ、芥川龍之介さんの息子で芥川也寸志（あくたがわ　やすし）さんとしのぎを削りながら成長しました。
その團伊玖磨さんが横須賀の秋谷に住まいを構え、横須賀市のために色々やってくれました。
私は長いこと、横須賀市の文化振興審議会の委員をしていますが、私が一番下っ端で審議会に入った頃に、團先生が審議会委員長でおられました。
そのころ文化振興審議会では、市民文化遺産を横須賀で作ろうというのをやっていました。
今でいう日本遺産の横須賀版で、ストーリーを考えながら、文化財としては欠けていたりするのでだめだが、市民にとって大切だよね、というものを市民文化資産として制定するということをしました。
初めは「横須賀にこんなのがある」と私は、レポートを書いて提出していましたが、そのうちに審議会委員に入れてもらいました。

横須賀市のまちはよく歩いていたので、何かあると、團先生と話をしました。
團先生がエッセイ「パイプのけむり」を書いていたころです。
そのころ、海軍カレーの事が始まったころでした。
まだ一般には公開されていない、田戸台にある旧横須賀鎮守府長官邸で團先生にスタインウェイのピアノを弾いてもらい、それからカレーライスを食べました。
海軍カレーを食べながら、團先生が隣で「あまりうまくないカレーだな」と言っていたのを覚えています。
でも、次に出た「パイプのけむり」の中では、「長官邸で海軍カレーをご馳走になったけど、大変おいしかった」と書いてありました。
確か、團先生が作曲した楽譜が横須賀市に寄贈されていて、これが今、眠っていると思います。
これが本当に眠っているとしたら、もう少しこれを活用していくということが大変大事なことになると思います。
今午後４時になると流れる「白波は～♪」という曲は、市制 60 周年に、葉山に住んでいた堀口大學（ほりぐち　だいがく）さんが作詞して、團伊玖磨先生が作曲です。
残念ながら、私は高校卒業するくらいの年齢だったので市歌を歌うチャンスがありませんでしたが、最近になって、歌えるようになってきました。
ピアノの話をしましたが、東京音楽学校でもって、日本で最初にピアノを教えたのが永井繁子（ながい　しげこ）さんで、益田孝（ますだ　たかし）さんという三井物産の創始者の妹です。
津田梅子（つだ　うめこ）、山川捨松（やまかわ　すてまつ）とともに日本で初めて５人の女子留学生として、アメリカに行き音楽の勉強をしました。そしてピアノの先生になりました。
アメリカの士官学校に留学中の瓜生外吉（うりゅう　そときち）と恋仲になり帰国してすぐ結婚して、音楽学校の先生をしながら、士官の奥さんを務めました。
瓜生さんは海軍大臣にはなりませんでしたが、横須賀鎮守府の長官になった人です。
日本国中を転勤で回っていた人の奥さんが東京音楽学校のピアノの先生をずっとしていました。
そのピアノの先生のお弟子さんが、幸田信（こうだ　のぶ）さんという幸田露伴（こうだ　ろはん）の妹さんです。
この幸田信さんに見いだされたのが、滝廉太郎（たき　れんたろう）さんです。
そう考えると、永井繁子さんが結婚して、瓜生外吉さんが海軍の軍人として立派になるが瓜生繁子さんになってもピアノを一所懸命続けたことが、横須賀に縁のある話です。
しかも永井繁子さんと一緒に留学した山川捨松さんは大山巌陸軍大臣と結婚しました。
大山さんには連れ子がいて、継母となりました。
連れ子である長女が三島通庸（みしま　みちつね）の子と結婚しましたが、結核のため離婚

させられました。
捨松さんは看護師の資格をもっていたので、帰されてしまった長女を横須賀市内で療養させました。
それが外から見ると、継母なのでつらく当たったように見えて、外へ出されてかわいそうにと世間から言われました。
その話を徳富蘆花（とくとみ　ろか）が書いた小説が「不如帰（ほととぎす）」です。
このような繋がりがたくさんあるんです。
この講演をしている場所は、戦後のジャズの発祥の場所です。
この建物を出て向かいの郵便局を崖のほうに入っていくと防空壕がありますが、そこが日本のディスコの発祥の場所です。
ディスコミュージックの発祥は横須賀からです。
平成町が今のようになる前の 26～27 年前に、平成町でレゲエの大会をしたこともありました。その時は日本中の若者が横須賀に来るのではないかと思われるほどでした。
あんまり騒いだもので近隣からお叱りを受け、結局 3 年ほどで終わってしまいました。
このような話を折り重ねていきますと、横須賀にこんな施設が必要、こんなものがあったら、こんな感じの音楽が聞こえるという音楽のある風景がいかに大切か、わかっていただけたらと思います。
こんな形を作っていくのも、私たちの役目だろうと思います。
ご質問は後の時間にいたしまして、終わりにします。
ありがとうございました。

◆講演２　斜面都市の魅力と課題
（矢部俊男（やべ　としお）氏 / 森ビル㈱都市開発本部計画企画部メディア企画部長）

司会／矢部様は、1998 年に森ビル株式会社に入社し、六本木ヒルズ開発における都市開発プレゼンツールの開発や企画を担当されました。
六本木ヒルズにあります森ビル社内には、矢部様が作成した東京都を 1/1000 のスケールで詳細に再現した都市模型が展示されているそうです。
更には、幅広い人がまちの未来を議論することが可能となるよう、都市開発・シティーセールスにおけるコミュニケーションツールのソフト開発業務などに従事されております。
本日は、森ビル株式会社様から見た「これからアピールすべき横須賀の魅力」とは何なのか。
また、その魅力を活かした景観づくりやまちづくりにつなげるために、地元住民・事業者・行政が取り組むべきことのご提案をお話しいただきたいと思います。
それでは、矢部様よろしくお願いいたします。

矢部氏／よろしくお願いします。

私、横須賀は 37 年ぐらい前、京急久里浜駅を立体化する工事現場で、大学生の時に現場監督をしていました。
その時１か月ぐらい、久里浜に住んでいました。
森ビルは３つ目の会社です。
２つ目の会社は鹿島道路の横浜支店で道路を作っていました。
ずっと横浜エリアの道路工事とか、横浜博覧会の時代に仕事をしていて、よく横須賀に来ていました。
ここで講演できることは光栄です。
本日の流れですが、まず自己紹介をします。
次に景観を作っていくテクニカル的な話、六本木ヒルズの時もそうですが、こうやって未来をイメージして作ってきたという技術の話をします。
もう一つは斜面都市という事について話します。
「斜面都市の課題と魅力」、僭越ですが、私なりに考えてきた、魅力ある斜面都市の未来を作るには、「こうしろ」ではなく、22 年間の森ビルの経験を経て、横須賀を客観的に見て考えていることをお話ししたいと思います。

最初に、私の仕事は街の未来の景観を視覚化することです。
（画像は、）特撮の展覧会があった時の写真です。街の模型を作って怪獣になって街を見ています。
こういったことをやるきっかけになったのが何かということからお話しします。
都市の未来を視覚化するのは、今では CG で当たり前にやっていますが、最初は 1993 か 1994 年に、カリフォルニア大学に行きまして、都市の未来を見るシステムを見てきました。
サンフランシスコの巨大なジオラマをみて、それを特撮のカメラで見て街の景観ガイドラインを決める。
サンフランシスコもご存じのとおり港湾斜面都市です。
サンフランシスコでは、1924 年からそれをやっているということに驚きました。
ニューディール政策の時代に始まりました。
のちに、大きなカメラで撮影する機械があるのですが、後にこの機械は小型化してスターウォーズの特撮を取るためのカメラに進化します。
そのカメラを使って都市の視覚化をしていくことにとても感動しました。
そして自分でつくろうという無茶な話で、秋葉原や東急ハンズに行き部品を買って、当時のカメラを使って特撮用のカメラを使って都市の視覚化をしていました。
まだまだコンピューターでできる時代ではなかったので、こうした形で、特撮をやっていました。
1994 年になると、阪神淡路大震災が 1 年後に起こりますが、街の景観をみんなで共有することになります。

例えば100mという高さはＡさんにとっては高くないが、Ｂさんにとっては高い。これは頭の中の言葉だけ、図面だけでは想像できないので、絵にして説明しよう、目で見るようにしようと。
ところが画面で見るだけでは、実際とはイメージが違うので、どのようにしたらいいのか研究していました。
この時は、架台にファミコンのコントローラーを付け、小さなカメラでまちの中を移動して見ることにしました。
これがのちにケーブ（CAVE）になります。
CAVEは洞窟のことです。
箱の中に入って実際の空間を再現するということを東大と一緒にやっていました。
今だったらヘッドマウントディスプレイという便利なものがありますが、４つのカメラを使って同時にアナログで同期するという原始的な方法を取っていました。
こういうものを使って都市の視覚化をすると同時に、リアルな未来を予測するというツールを作っていました。
存在しない街の未来を創るというのは、16 世紀のフランスから熱心にやっていまして、ジオラマがあります。
ヨーロッパの16世紀ごろは街と要塞はほぼ一緒だったので、どういうものをつくるかプランニングをする時に、どんな未来をつくるのか王様は軍隊の設計者に作らせました。
当時は製図がまだなく、分かりやすい形で見せるためジオラマを作って街づくりをする、未来を予測することが始まっていきました。
（画像は、）16世紀に作られたものですが、だんだんエスカレートします。
現地の砂やレンガをすり鉢ですりつぶし、ノリで固め、よりリアルなものになる。
王様に計画に興味を持ってもらうために、リアルな模型が作られました。
ジオラマはプレゼンツールだったということです。
今では、君主は民主主義の社会においては、市民の方ということになります。
ジオラマは、サンフランシスコの事例に近いものになるので、図面が読めなくても、街に対して意見ができるということで、西洋では現在も進んでいます。
フランスに行くと、ルイ 14 世の時代からナポレオン 3 世の時代まで、精密な都市模型が 250 以上沢山作られています。
とても日本では江戸時代初期のころに作られたとは思えないような、精巧なジオラマが博物館などに保存されています。
なぜ未来の視覚化について話をするかというと、都市計画や都市開発をやっている人間が、一番考えなくてはならないことですが、鳥の視点と人の視点で考え、わかりやすく伝えることが大事です。
「どんな街ができるの？」図面を見せて「はいこんな街です」ということは、これからはやってはいけないと。森ビルでは、六本木ヒルズのころから、そういうことはしないでいこう

という方針でプレゼンテーションをしていました。
それで、亡くなった森社長から誘われて、22 年前に森ビルに転職しました。
ＣＧはまだ使えない時代だった 1998 年くらいです。
日本で生まれた都市模型の技術ですが、デジタル技術ではフォトショップなど加工はできる時代になっていましたので、ＣＧ前夜の時代にそのデジタル技術を使って先にできることからやってきました。
森ビルにある 1000 分の１の模型は、15m四方の大きさなので 15 キロ四方の範囲の模型です。
横浜市の模型も作らせてもらいました。
（画像は、）模型ですが、写真を貼っているだけです。ウルトラマンや怪獣映画で使う職人が作っているものではなく、我々にとっては街づくりのイメージができればいいものなので、コンピューターで画をいじれるようになったことがきっかけで都市模型というジャンルをつくりました。
実は 2027 年の完成型も渋谷のものも５年以上前に出来ています。
ほかにもオリンピックのいろいろな会場を作って、未来の形はこうなると議論していました。
模型の大きさはスライドのとおりです。
後楽園があり、皇居、丸の内、六本木、品川など。
東京のコンセプトのテーマで、東京は７つの副都心でできています。
大崎、渋谷、新宿、池袋、上野、錦糸町とあって、７番目の臨海副都心を作っています。
次のスライド、これは羽田空港です。模型とはわからないくらいリアルなものです。
（画像は、）国際ターミナルです。
（画像は、）街のプレゼンテーションをしています。
（画像は、）ほかにも、1000 分の１のニューヨークとマンハッタンも作っています。
東京とニューヨークを一緒に作りましたが、なぜ一緒に作るのかというと、街は比較することがとても大事です。
自分の街とよその街とどう違うか。
外からお客さんに来てもらい、街を売っていこうとした時に、その街の大きさがどれくらいのもので、どういうものか。
何がいいのかわからないと、買うほうからするとイメージが伝わらないので、親近感を持ってもらう意味で、その人が来た都市と比較をしてもらう。
ニューヨーク、東京、最近は上海と比較できるようになっています。
東京と言ったら誰でも知っているだろうと思っても、グローバルな視点からは、東京はなかなか知られていない。
東京の模型を 2008 年にスペインに持っていき博覧会で展示しました。
多くの人は、東京を見て上海と言っていました。

ニューヨークの模型は皆さんニューヨークと言うのですが、東京の模型は上海と言われたわけです。
東京ですら世界でいうとそんなに知られていないということがあるので、私たちはそれを知ってもらうために東京とニューヨークを比較する感じでニューヨークの模型を作っているということです。
ミッドタウンのエリアについて、ローアーマンハッタンとミッドタウンというセントラルパークがあるエリアは、ここを皇居に例えると、というように説明します。
渋谷と東京駅の距離がローアーマンハッタンとミッドタウンの距離の違いなんです、と説明しやすい。
そうすると、ニューヨークから来た人は理解しやすいので、街のスケール感を比較するのは良いことです。
機会があればやってみたいと思ったのは、地図上ではやったことがありますが、横須賀、呉、佐世保を模型などビジュアル的なものを比べながら比較する。
展示施設などを作る時は、是非横須賀だけでなく、同じような街と比べてみて、どこがどう違うか説明すると物事の説明の幅が広がります。
先ほどの山本先生の話を聞いていて、展示室に、簡単なものでいいので、比較できるようにすると、外からきたお客さんは、興味深い街になることにつながるので、考えてみていただけたらと思います。
それから、世界の都市には、いろいろな街を紹介するところがあります。
東京にはあまりそれがありません。
私たち、横浜、名古屋、福岡、大阪は模型を作ったことがあります。
東京は私どもが作ったものがありますが、実は公開していないので、お見せできません。
（画像は、）上海であれば、500 分の１の大きな模型を作りました。
（画像は、）シンガポールやモスクワのシティギャラリーにもあります。
（画像は、）私たちが作った名古屋のシティギャラリーです。
街づくりを考える時、こんな未来をつくろうとか、こういうものをつくろうという時には必要なものです。
横須賀市にも本当はシティセンターのようなものがあって、こういう未来をつくるというようなものを見せるといいと。
名古屋などは金山にあるボストン美術館に都市センターがあり、そこで名古屋の未来について考えるということで、ステップアップする仕事をしています。
模型は場所を取りますが、最近はゲーム世代の人と付き合う時に、ＣＧやＶＲを使います。
ＣＧはコンピュータグラフィックス、ＶＲはヴァーチャルリアリティーです。
ＶＲはゲーム的な感覚でできるものを作っています。
ゲームソフトでまちづくりは 10 年くらい前からやっていますので、その事例をお見せします。

（画像は、）福井です。
駅前を再開発する話があり、新幹線が来るので、街を変える時のアイデアを出すために作ったものです。
例えば路面電車を伸ばすとか、駅前広場をどう使うのかなど。
太陽もシミュレーションできます。
映像ではなく、自分で中を歩いたりすることもできます。
これと同時に 500 分の１の模型も作り、ふく+（ふくたす）という場所にある空き店舗を利用して街づくりセンターを作り、市民が自由に出入りして街のことについて考えるスペースを作ったりもしました。
この装置は誰でも操作することができて、かつそのソフトが欲しい人は持って行ってパソコンで動かすこともできるというものを今作っています。
４年かけて作ってきていますが、途中から県も相乗りしてきて、県庁の跡地利用をこうしたいとか、交通課は駅前の照明をどうするかなど、それぞれの予算を持ち寄って、一つのプラットフォームにして街づくりをおこなっています。
横須賀であれば、関係団体が、こういうプラットフォームを作っておけば、いろいろなシミュレーションや植栽計画などできます。
道路の幅も自由に作れますし、インターロッキングの素材も作れるので、業界の方がコンペティションをする時に、使用できるよう実際に開発しています。
中を自由に動き回ることができますし、アイテムを入れ替えることもできるので、更地にして、ビルをいろいろ置いていって、どんなふうに配置するかなどゲーム感覚でできます。
例えば駅前に病院をつくるとこうなりますと。
すると、この広場はさびしいので緑を植えよう。緑も種類がたくさんあります。
人も配置して、こんな感じの街にしてはどうかと無限大のパターンのパーツが作れるものです。４Ｋで作っているので、このまま印刷しても大丈夫です。
（画像は、）福井県からいただいた仕事です。
今は、お城の本丸の中に、県庁が建っていますが、これはないだろうという話になっています。
松平春嶽（まつだいらしゅんがく）さんがいらしたお城ですが、これをもう一度戻して観光地にできないかという議論もしています。
未来の景観を作るとこうなると、福井城をつくるとこうなる、そこに駅からアプローチするとこうなるとか自由に作れるようにしています。
５年前の技術なので、現在はさらに進化し、web 上でも扱えるようになっています。
こういうものを作っておくと、イメージの共有として使いやすいものです。
ぜひ、横須賀も駅周辺だけでも作るといいと思います。一度作ってしまえば資産になります。
そこにどんどんレイヤーを足してデータを足していく。そこに山本先生のお話のような過去の記録も残すこともできると思いました。

（画像は、）現在、長野県茅野市では、５万人程の街ですが、この写真の大学生はコンピューターサイエンスをやっている学生で街づくりや都市計画などやったことはありません。
しかしゲーム世代なので、20 分くらいで使いこなしていろんな街をつくってくれました。
最近、建築学科、土木工学科の学生にコンピューターを教えるよりも、コンピューターの学生に街づくりや建築を教える方が早いと思うことがあり、コンピューターを使いこなせる人材はとても大切です。
実際、あまりにもこの技術が面白かったので、市民向けのワークショップに学生たちがもう一度参加させてくださいと言ってきました。
歩道を広げるとか、住宅地にするとか、ナビゲーターとして手伝ってくれました。

それでは「斜面都市の魅力と課題について」話します。
斜面都市という言葉、聞いたことがありますか？
斜面都市とは何か。
ただ坂が多い街ではなく、いくつか分類しました。
決して学術的な話ではありません。
日本中、色々な街をまわり、課題やリクエストを言われたりするところが、斜面の街が多かったので、半分、私の用語です。
３つの斜面都市があります。
扇状地型斜面都市、河岸段丘型斜面都市（内陸に多い）、港湾型斜面都市（横須賀など）です。
（画像は、）これは、長野県茅野市です。扇状地にできていて人口は 5 万人ぐらいです。
ただの扇状地で農業をやっているところは、斜面都市とは言いません。
こうしたところに都市ができるのですが、なぜ、都市が形成されるのか。
いくつかの理由があります。
戦争があった時、疎開工場という、大田区などの沿岸部の工場が空襲をうけるので、内陸に移動していった時期があります。
特に、諏訪市など、内陸の疎開工場はたくさんありますが、理由はいくつかあります。
1 つは、富岡製糸場のように、人材がいたという事。
産業が一つ崩壊し、次の産業を受け入れる労働力があったということです。
そして疎開工場が現在に至って残っているところが結構あります。
富士通さんやエプソンさんなどが内陸に工場を持っています。
平地には工場があり、住宅が増えてくるとどんどん上にいくことになります。
河岸段丘型斜面都市ですが、河によって削れて隆起を繰り返してできてきます。
大きな川、千曲川（信濃川）、利根川流域で形成されます。
（画面は、）これは沼田という利根川の斜面都市です。
（画面は、）こちらは津南というところです。40 万年位の下のところから九段くらいの斜面

都市になっています。
内陸の場合、津南は農業が主流ですが、沼田は木材が取れるので内装材を作るなど、関連する企業も移ってきています。
河岸段丘型のところに、内陸で斜面都市ができるという特徴もあります。
ほかに、福島の郡山もそうでパナソニックの工場ができています。
河岸段丘型斜面都市では、近年、長野の千曲川もそうですが、洪水の被害も課題になっており、だんだん敬遠される傾向にあります。
次は、港湾型斜面都市のうちの観光型斜面都市です。
（画像は、）あまり美しい画ではありませんが熱海です。
観光主力型と書いてあります。
港湾型斜面都市にはいろいろなタイプがありますが、最初からこうではなく、温泉が出たから観光地になっているものです。
これは静岡県に多いタイプです。
観光地として、港湾もあり、漁港であったり、観光用の港だったりします。
熱海などは特に傾斜が強いところが多い都市です。
真鶴など、神奈川県にも多くあります。
そうしたところを観光型斜面都市と呼んでいます。
次は、港湾型斜面都市の中の、造船鉄鋼主力型斜面都市です。
実は私、去年まで北九州で仕事をしており、北九州の斜面都市についてだいぶ勉強してきました。
北九州には八幡製鉄所という所があり、造船や鉄鋼といった産業が有名です。
（画像は、）カラーじゃないのが残念ですが、戦前の八幡製鉄所の状況です。
皆さんこの景色を見てどう思いますか。
空気悪そうに見えますね。
ところが驚いたことに、これが文明の進化の誇りの景色だったんです。
「われらが誇り高き七色の煙」と出ているような、煙突から７色の煙が出ていました。
水も空気も汚れるが、当時は近代化の象徴で、景気が良かったので八幡製鉄所周辺はどんどん発展していきました。
山の木は枯れて、人は病気になると同時に、鉄鋼が不況になり、今は大変というのが北九州市の状況です。
今、この斜面都市をどうしようか、と去年までやっていました。
北九州市は 100 万人の都市です。
中心部の大きさを考えると、横須賀とよく似ているくらいで、たくさんの町が合併して 100 万人都市になった場所です。
旧小倉、八幡を考えると、横須賀と似た地域です。
横須賀を放置した状態でいく未来の 30 年ぐらい先を進んでいるような印象がありますので、

北九州を先進事例として、手遅れになる前に、参考事例として紹介します。
（画像は、）港湾型斜面都市の長崎市です。
長崎市は、これからは観光にシフトしています。
港湾の駅があり、土地がないところなので、斜面都市が形成されています。
本来はこの辺りは見晴らしがよくて、価値が高いはずなのですが、もうすでに空き家になっていて、標高が高いところほど地価が安くなり売れなくなっています。
標高差が横須賀よりも何倍もあるのが長崎です。
長崎もこれからどうしようと考えた時、現在は観光船を受け入れる、観光都市の流れを進んでいると聞いています。
（画像は、）次に横須賀です。
横須賀で講演をするということで、昨年末に横須賀をあらためて見て歩きました。
横須賀は港湾都市で、トンネルを掘ったり、土を埋めてできた土地だと思います。
地形的に見ると、昔からあった地形ではなく、トンネルを掘ったりして出た残土を埋めてできたように見えますが、山本先生あってますでしょうか？
はい。ありがとうございます。
ある意味で、効率よく、神戸のポートランドのように山を掘った土で海を埋めて平地を作ってきました。
横須賀の場合は、造船ドックがあって、基地があったので、珍しいタイプですが、造船ドック、基地型と分類しました。
斜面都市の共通点の一つは、水とのかかわりが大きいと思っています。
長野県茅野（ちの）市には、諏訪湖があります。
諏訪湖は江戸時代では山のあたりまで、水があったそうです。
諏訪大社は水辺にあったそうです。
人工的に水を抜いて、平地を広げ産業地を作ったと聞いています。
斜面都市は、川も含めて水がついてくると感じます。
大きな湖だったり、大きな川だったり、深い海があるような場所が、斜面都市を形成する。
江戸末期、船が来航する時に、江戸に来なかったのは、深い海がなかったので、座礁するリスクがあったからで、世界中、リアス式海岸は、深いことは分かっていたので、ここに停泊したと思います。
港湾型斜面都市の宿命で、深い良い港の向こうには平地がないところはありますが、常に水辺が重要であることは今も変わっていません。
次に、斜面都市の課題です。
若干、暗い話もしますが聞いていただければと思います。
斜面都市の大きな課題には、防災があります。
津波、土石流、がけ崩れ。日本中の斜面都市で課題になっています。
北九州でも、大きな土石流や山崩れの問題が起きていて、津波の心配はないようですが、裏

の後背地からの土石流、がけ崩れには神経質になっています。
土石流、がけ崩れには、神経質になっています。
これをどう解決するのかが課題になっています。
それから、土地不足と平地不足。
山の上に家ができる背景としては、平地、土地が少ないため、どんどん上に上がっていきました。
それでも人が住んで景気よく、産業が回っているうちはよかったが、人が少なくなるにつれ、上の方から空家になる。
もう一つ、更地にすると、税金が高くなるので、そのまま放置された住宅が多くあります。
去年あった台風 19 号のような強風で家が傾いたりする被害もあるのが課題です。
それから次に、高齢化による移動手段の問題があります。
住み始めた時は元気だったから、100 段の階段も平気だったけれど、もともとが車が入れないような狭い道のため高齢化により住んでいる人も歩けなくなり、移動手段がなくなってきました。
行政で巡回バスを作っても、コストの問題から維持しきれない。
それが、北九州市の状況です。
それから空き家の問題ですが、作るのも、壊すのも大変という問題があります。
道路のアプローチがないので、どうしようかというところです。
一層のこと開発禁止区域として、森に戻してしまおうという様子なことも検討され始めてきています。
あとは産業構造の転換です。
横須賀には、基地にしろ通信にしろ、先端企業が入ってきています。
日産さんが北九州市に大きな工場がありますが、横須賀にも追浜工場があります。
車のシフトが変わってきた時に、産業構造がどう変わるか注意深くみていかないといけません。
さて、そのような関連から、斜面都市の課題を見える化する映像をつくる、i（あい）都市再生という内閣府の事業がありますが、去年私たちがこれをやらせてもらいました。
これはオープンになっていない映像なので、今日ここでだけお見せします。
神奈川県で参加しているのは横浜市だけなので、是非横須賀市さんも参加してください。
最新のテクノロジーに触れられ、都市の見える化をしていくことは非常に重要なのでどうぞ。
都市の景観を作る時に、目に見えるものだけでなく、先ほどの山本先生の話のように、例えば音楽なども重要であるとは思いますが、数字で見える化するのも大事だと思っていて、ここでは数値から都市の課題を見える化しましたので、その映像をご覧ください。

（映像）

内容は厳しいものですが、北九州は、ここまで表に言わざるを得ないくらい追い詰められています。
「バックキャスティング」という方法で、2050 年の状況を見て、そこから現在に遡って今ならどうしようかということで話が始まっています。

ネガティブなことばかりで言っても仕方ないので、港湾型都市の魅力の話をします。
横須賀は港湾型斜面都市の中でも、可能性がある場所だと思っています。
港湾型都市の魅力は、映画の舞台になりやすいとか、観光に向いている、産業構造の立地がしやすい。
また、海沿いの人たちは、オープンマインドというか、外の人を受け入れる風土があり、外から来た人も住みやすい街だというのが、印象です。
横須賀の街について、どんな風に考えるか、昨日 1 日考えました。
音楽の視点で切るとか、街をどうキュレーションするか、いろんなやり方があります。
一つはアニメの視点で考えてみるというお話をします。
目に見えるツールとして、実写で撮ると肖像権などいろいろな問題が起きます。
スタジオジブリの例を挙げます。ジブリは斜面都市が好きです。
森ビルもジブリさんから、直接聞いた話もありますが、ジブリの作品を思い出すと、斜面を使った作品が多いです。
どうしてか。二つ理由があります。
一つ目は、絵になるからです。
空になると面白くないので、画面を埋めるために、斜面の街を選ぶということがあります。
「魔女の宅急便」など見ていただくと、街を描く時に、斜面の街の方がいい街に見えます。
また、アニメーションは通常右から左へと水平に動きますが、ジブリさんの作品は、上下の移動というアニメーションとしては難しいことをしています。
そういった時に、物語の展開がしやすいので斜面都市になります。
同じように、斜面の街は映画でも使われやすいです。
こうした傾向は「君の名は。」というような最近の作品にもでています。
アニメの聖地巡礼の場所になるのは、秩父の河岸段丘の場所だったり、「君の名は。」も前出の長野県諏訪地方が舞台だといわれています。高山とも言われていますが、諏訪湖らしいです。
傾斜地を描いている場合が多いです。
アニメはシティプロモーションの聖地巡礼の場所になります。
六本木ヒルズは「君の名は。」の舞台になっており、ポスターを見ると六本木ヒルズが映っているため、東京の象徴が東京タワーから六本木ヒルズになったように世界中から人が来るという効果もありました。

経済的効果をどう生んでいくのか、ただ単に場所を使うのではなく、経済的効果に変換していくことが大切です。
シティプロモーションでいうと、ヒプノシスマイクという街自体をキャラクター化したアニメが 100 億円ぐらい稼いでいます。
ここにいらっしゃる会場の方はあまり知らないと思いますが、街をキーワードにした聖地巡礼のアニメーションができ海外からのお客さんが来たりしています。
また、横須賀というと「艦隊コレクション」という角川さんがやっているコンテンツが人気があります。
ほかに「ハイスクールフリート」が非常にはやっていますが、「ガールズ&パンツァー」の戦車で有名な大洗もあります。
アニメをどう使うかは、景観と合わせてやっていくと人気が出る要素だと聞いています。
僕の部署で脚本を作って、シティプロモーションのアニメを作った、東京の福生市のアニメをご覧いただきます。横須賀と同じく、米軍がいる街です。

（正面スクリーンをご覧ください。）

実際にある写真をアニメーションに加工しています。
街のロケをするのが難しい部分があり、特にエアフォースの撮影はほぼ不可能なので、アニメ映像にするとクリアできます。
また、福生は映画もテーマになっており、映画の商標も使用するのは難しいのでアニメにしています。
ギリギリのできる範囲では、このようなものができます。
テーマを決めて、横須賀の街を紹介していく、艦コレとか、ハイフリではなく、街の要所、要所を、著作権上の課題をクリアして世界中に SNS で出していくと、福生もかなりのビューを取りました。
「シンゴジラ」の監督も自分で声をあててもらい、実際にアニメに登場するという方法です。
福生の次に横須賀ができたらおもしろいと思っています。
You Tube で「福生　アニメ」と検索すると見ることができますので、見てみてください。
なぜ、アニメや映画という話題を出したかというと、
シド・ミードという「ブレードランナー」の背景の都市を描いた美術の人と森ビルとで仕事をしたことがありましたが、その時に森稔会長に向かって、シド・ミードさんが、「僕は美術監督だけれど、あなたは素晴らしい監督だ。」という話をしたのを覚えています。
景観だけを考えると美術舞台を作っている人の仕事ですが、街づくりは映画を作るのに近いものがあるで、そこでどういう人がどう演じて街になるのか、人間も、街にいる人たちも大事な景観の一つだということを話していました。
一つの考え方としては、例えば「すてきな斜面都市」という映画を作るかどうかは別として、

街づくりをする時に景観は美術監督の部分になりますが、俳優は市民であり、総監督は行政かもしれませんし、脚本家は山本先生のような賢者の方になるかもしれません。
あとはお金を持ってくるプロデューサーというように考えるとヒットする街が作れるのではないかと考えています。
街づくりは、映画を作るのによく似てるということです。
時間が無くなってきたので、八幡で作ったアニメーションは２本ありますが、今日は飛ばして次に進みます。
横須賀に話を戻します。
こう考えた時に、俳優は市民一人ひとりです。
美男美女だけがやるということではなく、市民が俳優になりどんな映画になるか。
みんなで一つの映画を作る感じで。
人口が減っているまちでよく言いますが、認知・交流・ニ拠点（関係）・移住というのがあります。
まずは、知ってもらい思い出してもらう。
交流はそこに来てもらい、関係者になり、最終的に気に入って移住してもらうというプロセスになります。
言い換えると映画を楽しむプロセスを考え、横須賀を訪問する人に対して、ここに住んでみたい、関係してみたいと思わせる脚本をどう作るのがポイントかと思います。
何度か訪れていますが、横須賀はコンテンツの宝庫です。
皆さん以上に、外からの人間が感動するコンテンツがたくさんある印象です。
中の人間には価値がなくても外の人間にとっては価値があるものがあります。
横須賀の景観を見て回り、観音崎はいいところだとか感じながら、僕が「横須賀」という超大作を作るとしたら、都市とリゾートのハーフ・アンド・ハーフ（50：50）というコンセプトで組み立てたうえで脚本を書き、令和は５Ｇの時代であるということからこのような絵を仕立ててみました。
僕が、横須賀に住んでみたいと思った時に、テレワークがあります。
テレワークはいろいろなところでやっています。
僕は、埼玉から六本木に通っていますが、満員電車に乗るのがイヤです。
例えば横須賀でテレワークを２時間、電車がすくまでやり、それから電車がすいたら出勤し、オフィスで６時間勤務するという方法があります。逆もあります。
そして５Ｇは何ができるのかというと、ドローンで物を運ぶのも自動運転も実用化はまだまだ相当先です。
５Ｇのアンテナを設置するのも大変です。NTT が近くにいてもまだまだ先です。
できることからやっていこうと考えると、５Ｇのいいところは、セキュリティーとクオリティーの高い解像度です。
空気が伝わる会議ができるので、第５世代のテレワークができるようなコワーキングスペ

ースを作って、横須賀市と東京をハーフ・アンド・ハーフでできるという物語を作る。
そして、どんな人が集まって、どんな産業ができるかというようなストーリーを作るといいと思います。
そこで、実際にどんなものを作ったらいいかを考えました。
（画像は、）これは長野県のさびれた商業施設に作った、コワーキングスペースです。
テレワークができる場所として、こういったものを作りました。
横須賀にこんなようなものがあって、５Ｇで、まるでその場にいるような環境のオフィスができ、東京とリゾートを行ったり来たりできれば、いろんな人が集まり、話題になる。
その時に大事なのは、必然として、NTT さんがここにいるのが大きなキーワードになります。
最先端産業の自動車会社や企業もいる中でこのようなことをして、「横須賀に住みませんか」と働きかければ街がよくなるので、一つやってみればいい街ができると思いました。
東京、横浜からなど近くの都市から呼んでくることができるので、機会があったら、目に見えない景観になりますが、このようなアイデアが実現できればと思っています。
時間になりましたのでこの辺で終わります。
ありがとうございました。

◆質疑応答（山本詔一氏、矢部俊男氏）
会場／横須賀市池田町からきました。
先ほどの話で、古いものを活用する重要性についてお話いただきましたが、古いものだけではなく、新しいものを作る必要があると思いますが、そのバランスはどのようにするべきだと思われますか？
山本氏／古いものは大事にしなければいけないが、それを支えているのは新しいものです。新しい価値観を入れていくことで、古いものをどう意味付けていくかということが大事だと思います。そのためには新しい感覚は絶対に必要です。
矢部氏／大事な質問です。古いもの、新しいものを考える時に、古いものは必ずしも箱やモノである必要はない。
平成と令和の時代の違いは４Ｇと５Ｇの違いがありますが、どう使いこなすかが大事なところになります。
横須賀にはそれを作った会社（NTT）があります。目に見えないものも古いものと新しいものをレイヤーとして重ねていくのが重要だと思います。

会場／お話の中で、空き家の処理の中でコンパクトシティ化が出てきました。
高い所に住んでいる方を低い所に移住させるようなシステムや法律の問題などの具体例があれば教えてください。
矢部氏／個人の資産を制約して「こっちに移れ」と言える状況ではないです。
現状の段階では「見える化」をまずすることが必要です。固定資産税で入ってくるそのエリ

アのインカムと、そのエリアを維持するために出ていくお金の差し引きの表を明確化することで、共通でコンセンサスをとる。
北九州では、すぐに移ってくれではなく、長期的な視点で見なければいけないが、今まではタブーだったものを、タブーを表に出したということが画期的なことというわけです。
まだ強権的な制限はありませんが、今後、開発制限をしますよというところまで踏み込んでいると聞いています。
会場／今日は、「久里浜再開発を考える会」として市からご案内をいただき、参加しました。
矢部先生のお話を聞き、行政によっては、あるいは、見えるということで「模型」をきちんと作り、再開発する場合は、病院を入れたり、緑を入れて見たり、道路を広げて見たりなど非常に具体的なこととして受け止めました。
久里浜地区に帰りましたら、それが、「1 丁目 1 番地」ということで、会の皆さんお伝えします。
名古屋市や福井市で、市全体として作るにはいったいいくらぐらいかかりますか。
矢部氏／ここでは答え辛いところがありますが、ざっくり言って１区画が大体 1000 万円ぐらいです。ただ、少しづつ安くはなってきていて、３Ｄプリンターで作る方法もあり、またそれにプロジェクターを当てて未来の絵を描くなどの方法もあります。
直感的には、久里浜は土地勘があるので、あそこは、模型とＣＧでプロモーションを打って効果を出しやすい、良い開発ができる場所だと思います。
駅ができる前の商店街のことも覚えているので、実際こんな風にしたらいいだろうなということがありますし、今回のことで、久里浜も見てきて、いいものが作れる街だと思います。
ぜひ、声をかけてください。横須賀市から声がかかれば喜んで駆け付けます。
会場／ぜひ、先生に横須賀市民になっていただきたい。
矢部氏／横須賀市民になるのは OK です。
僕はオートバイにのるので、バイクに乗るのには、横浜よりも横須賀が似合うよなと前から思っていました。少し真剣に考えたいと思います。
横須賀中央だけでなく、久里浜や観音崎周辺は大好きです。
また来る機会を作ってくれると嬉しいです。
会場／先生、斜面都市というのが、先生のテーマということですが、今日のお話にはなかったけれど、狭隘道路を４メーター道路にすることが最低必要なことで、その中で空き家問題も変わってくると思います。
私は代々、土地貸しを生業としています。
５年前、総務省で、横須賀の世帯数の減少が全国１位と言われました。
横須賀 40 万都市がいつまで維持できるかわかりません。
市のお偉方も今日はいらしているようですが、できれば、住んでいただくことが大事なので、声を出す場所があればいろいろ提言をいただきたいと思います。

会場／港ヶ丘に住んでいる者です。
私は福井生まれで、今は横須賀に住んでいますが、北九州にも住んだことがあります。
北九州と横須賀には結構似ているところがあります。
来年には、北九州との間に、高速フェリーが就航して、人も行き来します。
市レベルや市民レベルで交流するなどして、情報を共有し、それぞれ発達するのがいいと思いますが、そのことで具体的にどのようなことを話し合っていくといいのか伺いたいと思います。
矢部氏／北九州で仕事をしていて思いましたが、北九州を学んで作った街に大連があります。
大連市は脱鉄鋼から商業・貿易都市というグローバル都市に変わろうとしています。
北九州市を勉強していた大連が、いつの間にか北九州を抜いて行ってしまっているという状況になっていくのではないかと思います。
先ほど狭隘道路の話も出ましたが、モビリティの問題と通信をどうするかによって、新しいものを作れる。
北九州市へフェリーで行けると、今初めて聞いたので、そのフェリーで久里浜からバイクで行こうと思いました。
物が運べることはとても重要です。物さえ運べれば、あとはコミュニケーションするためのツールです。
５Ｇの時代は、ドローンで物を運んだりするより、手っ取り早くコミュニケーションを取ることに秀でている通信技術です。
北九州市さんには、そっち（通信技術）を一緒にやる。
これからは、通信の高度人材が必要になってきますが、ＩＴをやる人材は若い子達で、足りなくなってきます。
そういう人材は都会の窓のない部屋でやっていると気が持たないので、斜面の海を見ながら仕事するというトレンドを両方に作っておいて、新しい産業構造にシフトすると。
鉄鋼業や港湾業からグローバルな人材が行き来できるような港湾都市になるといい。
港湾都市というと、物流だけでなく、オープンマインドという言葉を使いましたが、内陸部ではクローズドなマインドがあることもあり、よそ者が入りづらいところもありますが、横浜に引っ越した時、浜っこは3～4日で慣れると言われ、実際そう感じましたが、港湾都市はオープンマインドです。
北九州も同じオープンマインドがあるので、その気質をつくるソフトの面を強化することも真剣に考え、若い人材を取り込む。
足腰の強い若者は高いところに安く住み、年取ったら、下に降りてくるというループを回せるような仕組みになれば、きっと上の街も生きてくると思うので、「回す」と「通信」をテーマにシンポジウムをやってみるといいのではないかと思います。

司会／ありがとうございます。
浦賀は歴史的に見て栄えていましたが、特定の街とつながりがあったことはありましたでしょうか。
山本氏／浦賀の場合は対岸の房総半島とは交流が深いです。
今はなくなってしまいましたが、湾口架橋をかけようというプロジェクトがありました。
奥のほうでは１本架かりましたが、観音崎、走水あたりから富津へかけようというものがあった時に呼ばれて話をしましたが、古代の時代からとても交流が深いのです。
矢部先生が言われたように、浦賀はオープンマインドで、あちこちの人たちをすっと受け入れられ、その人たちが住みつけられるようないい街です。
浦賀のまちの屋号を見ると、私の家は信濃屋ですが、日本国中の国の名前が付いた店がたくさん並んでいました。
それだけの人が入ってきていろんなことができるオープンな部分があり、特に房総半島とは非常に親しい関係でした。
司会／住んでもらうためにはやはり受け入れるオープンな雰囲気も大事になりますね。
会場／浦賀から来ました。
ルートミュージアムは横須賀の計画で、計画を見た時に観音崎は抜けていたようですが、神奈川県の管轄であるため、そうなったと聞きましたが、これはどうなりますか。
山本氏／ルートミュージアムは、どこを入れてどこが抜けるということはありません。
全て入ります。観音埼灯台はもちろん入ります。
実は面白いのは、観音埼灯台へ行く石畳です。あれは、横浜市電が走っていた頃の、市電に敷かれていた石を持ってきてあそこに敷いたものです。
そうすると横浜との交流もできます。
ちょっと滑りやすいので危険なんですが、あそこに観音埼までレールを埋め込むと非常に面白いと思います。
先ほど矢部先生と話をしていたのですが、「横須賀市内に廃線はないのか。」という話です。
計画はたくさんありました。
明治時代に馬車鉄道や路面電車などの計画もありましたが、横須賀は狭くてできなかったんです。
計画で終わった夢の路線も考えてルートにすることも考えられます。
灯台のつながりでは燈明堂もあります。
そんなことも考えると、観音崎には良いロケーションがあります。
観音崎は県立公園だからルートミュージアムに含まれないなんてことはありません。
会場／山本先生、ルートミュージアムですが、初めて詳しく伺いました。
実際、市民はルートミュージアムのことはあまり知らないかもしれないです。
来年、開館するにあたり、市民を盛り上げるのが重要と感じています。
今日、ルートミュージアムの話が３つほどありましたが、それらの他に、市民が勝手に開館

にあわせてなにかできるような仕組みを作る方向はありますでしょうか。
山本氏／横須賀にはシティガイドというグループがいますが、そのシティガイドさんが今どんなキーワードで、どんなことができるか、いろいろ考えてくれています。
どんなものがあって、それにはどんなキーワードを付けるといいのか。
ルートミュージアムということで、点と点を結ぶだけではなくて、エリアの中でそのエリアをどう見せていくといいのかを考えてくれていて、これはこれでルートを紡ぐことができます。
来年の２月くらいまでには 10 コースくらい作っていきたいと考えていますし、誰もシャットアウトしていませんので、情報をたくさんいただいて、色々提案していただければ、それらを私の方でも紡いでいきたいと思っています。なんでもいいので言ってくださるのはありがたいです。
会場／その時に、シティガイド協会のような団体だけでなく、非公認でルートミュージアムに係りたい者にも資料代を助成するなどの制度はできないでしょうか。
山本氏／ルートミュージアムではガイドさんが絶対に必要になります。
ガイド養成講座を現在も始めていますので、どんどん参加していただければ、ある程度できると思います。
また、ガイドでないからルートミュージアムをやってはいけないということはありません。逆に非公認でおもしろいことをやっていたら、いいのでは。誰にも何も言われないでそっとやってるのがわかると、面白がってくるので。
今質問をしてくれている方は、斜面都市のことをしてらっしゃって、あだ名を、「ヨシダ坂道さん」と言います。
横須賀には坂道がたくさんありますが、今もそれをホームページに発表している大変優秀な方です。
坂道さんが面白いのは、坂道の情報だけでなく、そこにどんな居酒屋があって、帰りにちょっと飲めるかというところまで載せていてくれる。そんなものも情報としては面白いです。
司会／市民の皆さんが情報を寄せずにはいられないくらい、たくさんの情報が集まって魅力的なルートになっていくと嬉しいですね。
矢部氏／先ほどの話を聞いていて思ったことがあります。
私は NTT の手先ではないのですが、５Ｇでやる時に、山本先生のやっていることを、保存する、オーラルヒストリーというアーカイブする方法があります。
外国語にもすぐに変換でき、呪縛霊のように置いておくことができるのが５Ｇの時代です。
皆さんの知識をオーラルヒストリーにアーカイブしておくと永遠に記憶が残ります。
今までも先人が文字を残してくれたから色々残っていますが、所詮文字は２ビットの情報しか残せない。
しかし、スマホを持って来た時に５Ｇでいろいろできるので、人それぞれの記憶を植え付けることができます。

オーラルヒストリーという、タグ付けのもっと高度なレベルのものもができます。
箱の美術館だけでなく、山本先生のお話のような都市の記憶を残していく事業は、NTT のような会社がせっかく近くにあるので、そのシステムを作られたらいいのではないかと思いました。

司会／お時間となりましたので、質疑応答を終了させていただきます。
ありがとうございました。
皆様、山本様、矢部様に今一度大きな拍手をお願いいたします。

よこすか都市景観協議会

【会員】9団体

一般社団法人 神奈川県建築士会横須賀支部

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会横須賀支部

ミーズ設計連合協同組合

公益社団法人 神奈川県宅地建物取引業協会横須賀三浦支部

公益社団法人 全日本不動産協会神奈川県本部横須賀支部

横須賀建設業関連団体協議会

- 一般社団法人 横須賀建設業協会
- 横須賀建工同志会協同組合
- 一般社団法人 横須賀三浦建設協会
- 横須賀電気工事協同組合
- 横須賀管工事協同組合
- 横須賀緑化造園協同組合
- 横須賀三浦塗装工業協同組合
- 横須賀内装事業協同組合
- 測新会

公益社団法人 横須賀青年会議所

横須賀商工会議所

横須賀市

【オブザーバー会員】3団体

神奈川県横須賀土木事務所

東京ガス株式会社横浜支店

東京電力パワーグリッド株式会社藤沢支社

［順不同］

〈事務局〉

横須賀市都市部まちなみ景観課

〒238-8550 横須賀市小川町 11番地

TEL:046-822-8377 FAX:046-826-0420

発行：令和2年4月